

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

I～IVはすべてマーク式で、VとVIは記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

※ここ5年の長文2題の総語数は、「2,338→1,959→1,883→1,953→2,008」で推移している。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・2019年度以降出題されていなかった段組みの形式で書かれた物語文が出題された。
- ・2024年度に出題されたイディオムの知識を問う空所補充問題がなくなり、READING/GRAMMAR SECTIONは5題から4題になり、WRITING SECTIONは2題のままという大問構成であった。
- ・WRITING SECTIONでは、2024年度の列車の乗換案内(大問VI)からメールを完成させるもの(大問V)に変わった。なお、最後の大問は、2019年度以降6年連続して、「絵」を用いた形式の自由英作文が出題されていたが、「地図とグラフ」を用いた形式に変わった。

新課程を踏まえた出題

- ・関連する複数の情報源(地図とグラフ)から読み取れることを書かせる形式の自由英作文が出題された。

その他トピックス

- ・大問IIで、2024年度は法学部の定番といえる「パラグラフの要旨選択」が復活したが、2025年度では再び姿を消した。「発音・アクセント」は2024年度に引き続き出題された。
- ・大問IIIの正誤判定問題では、2023年度・2024年度では「ALL CORRECTが正解」となる設問はなかったが、2025年度は1問だけALL CORRECTが正解となる問題が出題された。
- ・大問Iとの難易度の差を考慮すれば、大問II～IVの3題は確実に得点したい。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「夕霧花園」 (1,327 words)	内容一致、内容不一致、同意表現選択、発音・アクセント 設問(2)のテーマを絞った内容不一致は本学部の定番といえる。(3)は本文から推論できるものを選ぶタイプの内容一致。	やや難
II	読解総合	「ディープ・ラーニングの二面性」 (681 words)	内容一致、空所補充、要約、同意表現選択、発音・アクセント(強勢のある母音の識別) 内容はわかりやすく、設問も素直で解きやすいものが多い。	やや易
III	文法・語法	正誤判定	下線を引いた4か所のうち、文法的に正しくないもの(誤りがなければALL CORRECT)を選ぶ。	やや易
IV	文法・語法	その他	150語程度の英文中の空所補充。内容はわかりやすく、解きやすい。	やや易
V	自由英作文	課題提出の締切を延長してもらう依頼文を書く	締切に間に合わない理由として「腕の骨折による入院」という情報を盛り込むように指示されている。	標準
VI	自由英作文	与えられた地図とグラフから読み取れる内容を表現する	与えられた地図とグラフを見て、「2つの情報源から読み取れる内容」についての考えを「1つのパラグラフ」にまとめるように指示されている。解答欄のスペースから判断して、90語程度で書くことになる。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・長文問題では、内容一致型の設問が数多く出題されるので、日頃から本文と選択肢を照らし合わせながら読み進めていく訓練が必要となる。また、語彙に関しては、できれば受験レベル以上のものにも手を広げておくとよいだろう。
- ・物語文に関しては、与えられた選択肢を手がかりにして本文の大まかな流れをつかみ、設問を解くことに主眼を置きながら粘り強く読み進めていくことが重要となる。なお、物語文を題材にした設問を練習する際には、法学部の過去問に加え、国際教養学部 of 過去問も利用するとよい。
- ・文法に関しては、過去問などを利用し、標準レベルの問題を中心に演習しておけば対応できる。
- ・自由英作文では、構文や表現を確実に身につけておくとともに、適切な接続詞や関係詞などを用いて文を構成する訓練が必要である。グラフや絵・写真といった視覚情報から読み取れる内容を記述する問題への対策を十分に行っておくこと。